

立正大学博物館年報

12

平成 25（2013）年度

立正大学博物館

序

平成 25 年度の立正大学博物館の運営は、新任の専門職員と事務嘱託を迎えて新たな体制でおこなわれた。2 年間の混乱を経て、ようやくに正常に機能が復活されたものである。資料活用・展示では、仏教系の大学博物館として所蔵する資料のなかで仏教遺物を取り上げて、末法の世に生きた衆生の願いをこめた造形を題材として、「泥塔と瓦経」を第 8 回特別展として開催した。博物館学芸員資格取得を目指す受講生のための博物館館務実習は、希望する学生は少人数であったものの例年どおり実施し、教育施設としての機能を果たすことができた。

その他の日常業務もほぼ遂行できたが、この中では特に、熊谷校地の施設の再配置に伴い博物館所蔵資料の保管場所が一定しなかったが、ようやく一箇所にまとめて保管できることとなった。長らく不安定であった博物館所蔵資料の保管もようやく安定した後は、その有効活用が望まれるところであり、将来の重要な課題と認識される。

平成 26 年 4 月

博物館長 池上 悟

目 次

序	
目次	
I. 博物館の概要…………… (2)	II. 事業報告…………… (8)
(1) 組織と職員	(1) 開館日数・入館者数
(2) 立正大学組織表	(2) 出 版
(3) 立正大学博物館規定	(3) 資料活用
(4) 立正大学博物館細則	(4) 展 示
(5) 施 設	(5) 教育普及
	III. 受贈図書目録…………… (14)

I. 博物館の概要

(1) 組織と職員

a. 職員

館長 池上 悟 事務嘱託 古川史典
専門職員 阿部常樹

b. 運営委員

第1号委員

池上 悟 (博物館長・文学部教授)

第2号委員

阿部常樹 (専門職員・非常勤嘱託)

第3号委員

舟橋 哲 (法学部長・法学部教授)

松井秀郎 (地球環境科学部長・地球環境科学部教授)

第4号委員

小畑二郎 (経済研究所長・経済学部教授)

山口忠利 (社会福祉研究所長・社会福祉学部教授)

第5号委員

安田治樹 (博物館関係学識経験者・仏教学部教授)

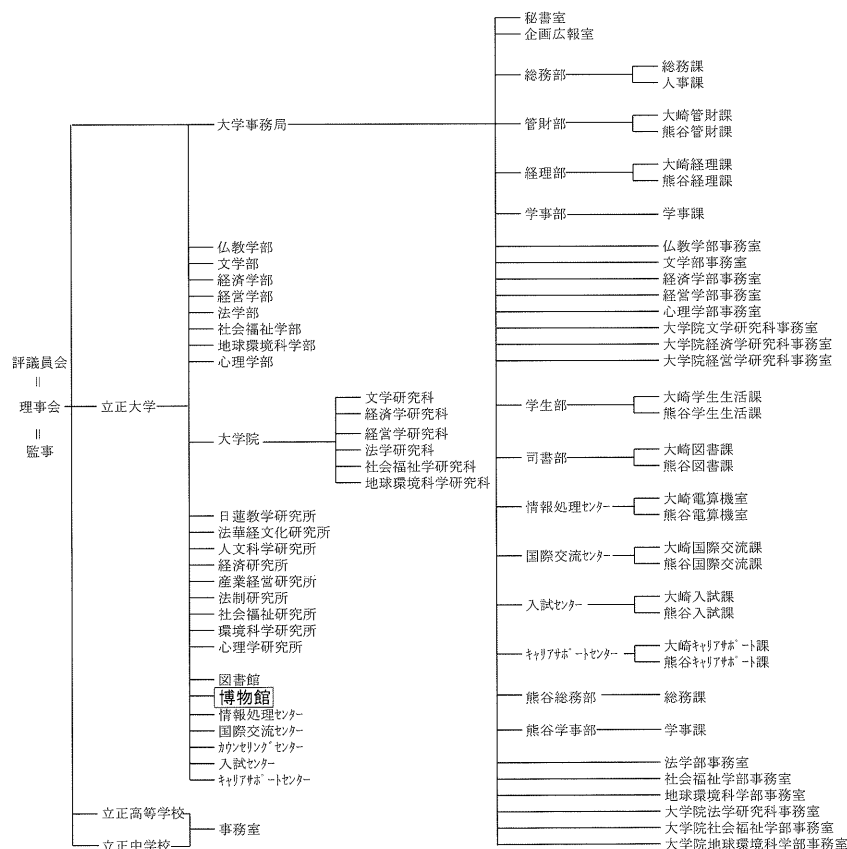
第6号委員

野沢佳美 (文化史関係学識経験者・文学部教授)

第7号委員

川野良信 (自然誌関係学識経験者・地球環境科学部教授)

(2) 立正大学組織表



(3) 立正大学博物館規定

(設定)

第1条 立正大学学則第9条の規定に基づき、熊谷キャンパスに「立正大学博物館」（以下「博物館」という）を置く。

(目的)

第2条 博物館は歴史・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料（以下「資料等」という）を収集、保管し、これを組織的に展示し、広く社会に公開するとともに、これらの調査研究を行うことによって大学における教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 資料等の収集、整理および保管
- 二 資料等の展示および公開
- 三 調査研究活動
- 四 調査研究成果の発表および出版
- 五 本学における博物館学芸員課程関係科目、その他関係授業科目の教育活動への協力
- 六 講演会、講習会および特別展示会の開催
- 七 その他必要な事業

(職員)

第4条 博物館に次の職員を置く。

- 一 館長
- 二 専門職員

(館長)

第5条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は博物館を代表し、博物館の業務を総括する。

3 館長は全学協議会に諮り、本学専任教職員より学長が任命する。

4 館長の任期は3年とし、再任を妨げない。

5 館長が欠けたときは、補充しなければならない。この場合において、その任期は前任者の残任期間とする。

(専門職員)

第6条 専門職員は第3条に定める事業に従事するとともに、これに関連する業務を行う。

2 専門職員は博物館学芸員の資格を有するものとし、任期は3年とする。

(運営委員会)

第7条 博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会（以下「委員会」という）を置く。

(委員会・構成)

第8条 委員会は、次の者を以って構成し、学長が委嘱する。

- 一 館長
- 二 専門職員
- 三 学部長から2名
- 四 研究所長から2名
- 五 博物館学芸員関係学識経験者から1名
- 六 考古学および文化史関係学識経験者から1名
- 七 自然誌関係学識経験者から1名

2 館長の推薦により、前項に定める委員会のほか、学識経験者若干名を加えることができる。学識経験者委員の委嘱は学長が行う。

3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴く

ことができる。

(委員の任期)

第9条 前条第三号乃至六号および第2項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 任期中に欠員が生じた場合は、委員を補充し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第10条 委員会は、館長が召集し、議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。

(委員会の審議事項)

第11条 委員会は、以下の事項について審議する。

一 資料等の収集、整理、保管、展示

および公開に関する事項

二 博物館の管理運営に関する事項

三 調査研究活動ならびにその成果の発表および出版に関する事項

四 博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力に関する事項

五 博物館の予算・決算に関する事項

六 その他必要な事業に関する事項

(細則)

第12条 この規定に定めるもののほか、管理運営上必要な事項は、立正大学博物館規定細則によるものとする。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は委員会および全学協議会の議を経るものとする。

附則

この規程は平成14年4月1日から施行する。

(4) 立正大学博物館細則

(趣旨)

第1条 この細則は立正大学博物館規程第12条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館日)

第2条 立正大学博物館（以下「博物館」という）の開館日は原則として立正大学学則第31条に定める休業日および火曜日を除く日とする。

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。

(入館手続)

第4条 博物館に入館する者は、所定の手続きをとらなければならない。

2 館長は博物館における教育および研究活動に支障があると認める場合は、入館を許可しないことがある。

(入館料)

第5条 博物館の入館料は原則として無料とする。

(入館者の義務)

第6条 入館者は博物館の施設・資料等を毀損し、または滅失したときは、直ちに館長に届け出て、その指示に従わ

なければならない。

- 2 入館者は前項の規定にある損害に対し損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除または軽減することができる。

(資料等の利用)

第7条 博物館内において撮影、実測、特殊観察、複製製作の目的で資料等の利用を希望する者は、館内利用許可申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

- 2 資料の所蔵者または寄託者が学外にある場合は、当該資料の利用を希望する者は事前に所蔵者または寄託者の承認を受け、それを証明する書類を利用許可申請書に添付しなければならない。

- 3 利用を許可された者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一 利用に際しては博物館の専門職員の支持に従うこと。

二 利用による成果を刊行物、映画フィルム、ビデオテープ等に発表したときは、本博物館の名称およびその所蔵、または保管である旨を明記すること。

三 利用により生じた著作物等は利用許可申請書に記載の目的以外には使用しないこと。

四 館長は、第1項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうち館内利用許可書を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、立正大学博物館運営委員会（以下「委員会」という）の議を経なければ

なければならない。なお、館長は管理上支障があると判断した場合は、許可を取り消すことができる。

- 五 本条第1項による利用許可を受けた者が、当該資料を毀損した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の利用料金)

第8条 前条第3項により許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入しなければならない。

- 2 館長は、前項の定めにかかわらず次の各号のいずれかに該当する場合は、利用料金を全額免除することができる。

一 各種教育機関や国または地方公共団体および公益法人が行う教育、学術および文化等に関する事業

二 博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等の行う事業

三 学術研究

四 前号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき

- 3 前項の定めにより利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物1部以上を無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が認めたときはこの限りでない。

(資料等の貸出)

第9条 資料などの貸出を受けようとする者は、館外貸出許可申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

- 2 館長は前項の貸出許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館外貸出許可書を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、委員会の議を経て決定しなければならない。
- 3 館長は管理上支障があると認められる場合は、前項の許可を取り消すことができる。
- 4 本条第 1 項による許可を受けた者は、貸出期間中に当該資料等を毀損または滅失した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の貸出料金)

第10条 前条第 2 項による許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入するとともに、貸出期間中および貸出に伴うすべての経費を負担するものとする。

- 2 前項の定めにかかわらず、第 8 条第 2 項一号、二号および四号のいずれかに該当する場合は、貸出料金を全額免除する。
- 3 前項の定めにより貸出利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物を 1 部以上、博物館に寄贈しなければならない。ただし、館長が特に認めたときはこの限りでない。

(寄託)

第11条 資料等を寄贈・寄託しようとする者は、その品目、点数、期間等を寄贈申請書・寄託申込書に記入のうえ、館長に提出するものとする。

- 2 館長は前項に定める寄贈・寄託の申出があった時は、委員会の審議に附

し、受入の承認がなされたものについて、学長に意見書を提出しなければならない。

- 3 館長は寄贈・寄託を受けた時は、寄贈・寄託者に対して該当資料の受領証・受託証を交付するものとする。
- 4 館長は、寄託を受けた資料等について十分な注意を持って保管しなければならない。

(細則の改廃)

第12条 本細則の改廃は、委員会および全学協議会の議を経るものとする。

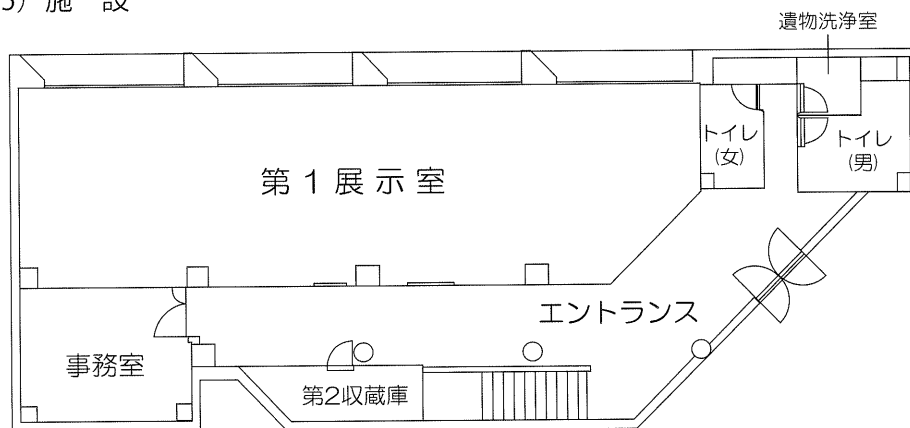
(附則)

- 1 この細則に定めのない事項については、館長がその都度、委員会に諮り処理する。
- 2 この細則は平成 14 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 この細則は平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

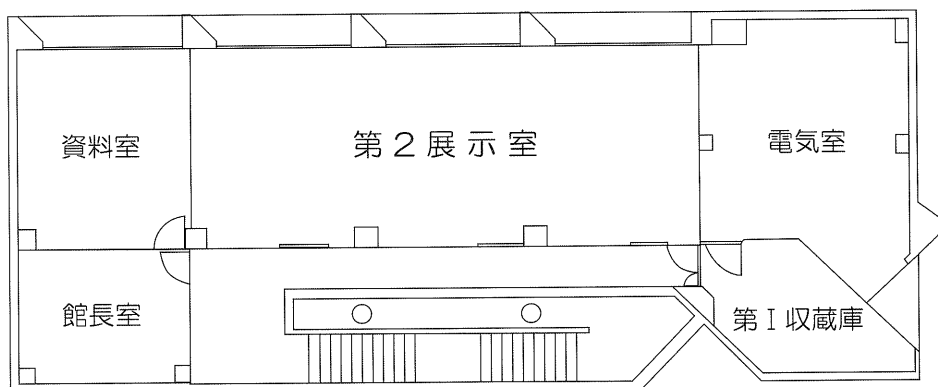
(申請書様式一覧)

- 様式 1 : 館内利用許可申請書
- 様式 2 : 館内利用許可書
- 様式 3 : 館外貸出許可申請書
- 様式 4 : 館外貸出許可書
- 様式 5 : 博物館資料寄贈申請書
- 様式 6 : 博物館資料寄託申請書
- 様式 7 : 博物館資料受領証
- 様式 8 : 博物館資料受託証
- 様式 9 : 博物館資料借用書

(5) 施 設



1階 平面図



2階 平面図

- 建物
 - 所在地・・・埼玉県熊谷市万吉 1700
 - 建築面積・・・376.8 m²
 - 構造・・・鉄筋コンクリート造 2階建

●各室面積一覧

(1階)

第1展示室	93.88 m ²
事務室	17.10 m ²
第2収蔵庫	3.22 m ²
トイレ	11.01 m ²
遺物洗浄室	2.26 m ²
エントランス	45.64 m ²

(2階)

第2展示室	71.22 m ²
館長室	16.98 m ²
資料室	23.89 m ²
第1収蔵庫	12.30 m ²
電気室	39.00 m ²

●各室仕様

(第1展示室・事務室)

床	タイルカーペット敷
壁	ビニールクロス貼り
天井	ミネラートン

(第2展示室)

床	タイルカーペット敷
壁	ビニールクロス貼り
天井	ミネラートン

(館長室・資料室)

床	タイルカーペット敷
壁	ビニールクロス貼り
天井	ジブトーン

●電気設備

受電設備	6.6KV
変圧器設備	電灯ー 100KVA 動力ー 80KVA
照明設備	展示室ーハロゲンランプ使用 館長室・事務室・資料室ー蛍光灯使用

●防犯・防災設備

防犯設備	各室熱センサー取付、非常通報設備
ITV設備	CCDカメラ4台、展示室等監視
自動火災報知設備	P型1級5回線
消火設備	粉末消火器9台

●空調設備

空調機	空冷式、パッケージエアコン(個別)
-----	-------------------

●給排水設備

給水設備	市水道使用
給湯設備	貯湯式電気湯沸器

Ⅱ. 事業報告

(1) 開館日数・入館者数

平成 25 年 4 月 2 日（月）～平成 26 年 3 月 29 日（土）までの 218 日間を開館した。総来館者数は 1,594 名であった。

内訳は一般 594 名、大学生 311 名、教職員 81 名、高校生以下 183 名、オープンキャンパス時来館者 425 名である。

団体見学は、日本ベル協会、熊谷市直実市民大学、熊谷市見学バスツアー、生きがい大学、熊谷市中央公民館、上石公民館文化財めぐり、立正大学父兄会、埼玉県立宮代高校 PTA、埼玉県立妻沼高校 PTA、埼玉県立鴻巣女子高校 PTA、埼玉県立誠和福祉高校 PTA、埼玉県立吹上秋桜高校 PTA、茨城県立岩井高校 1・2 年生、鴻巣女子高校 1 年生、群馬県立高崎東高校 1 年生、埼玉県立吹上秋桜高校 2 年生、県立上尾南高校 2 年生、県立熊谷商業高校 2 年生、東京成徳大学深谷高校 2 年生、その他に社会福祉学部新入生、博物館学芸員科目受講生など、本校の授業の一環とした見学があった。

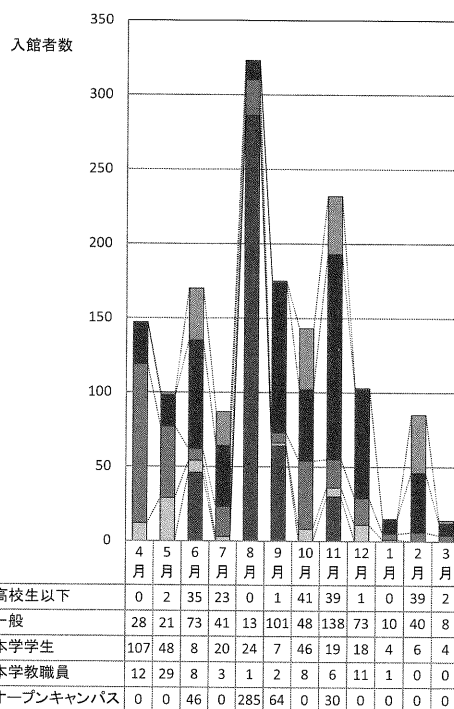


表 平成 25 年度月別入館者数

(2) 出版

本年度は、以下の出版物を刊行した。

- ・立正大学博物館年報 第 11 号
- ・第 8 回特別展『泥塔と瓦経』展示図録

- ・立正大学博物館報『万吉だより』第 17 号
- ・立正大学博物館報『万吉だより』第 18 号

(3) 資料活用

当館所蔵の資料を以下の博物館等に貸出した。

利用目的 特別展「題目板碑と宝塔～中世池上の法華信仰と供養～」での展示

貸出先 池上本門寺霊宝殿（大田区）

貸出資料 徳治三年銘題目板碑 1 点
嘉慶二年銘阿弥陀三尊板碑 1 点
久保常晴博士関連資料 3 点

貸出期間 平成 25 年 9 月 25 日（水）
～ 12 月 7 日（土）

(4) 展 示

1. 常設展示

－第1展示室（1F）－

眞鍋孝志氏（日本古鐘研究会会長）より寄贈されたアジア諸地域の梵音具を中心とする撫石庵コレクション、および立正大学考古学研究室が1958年～1980年にかけて文部省（現文部科学省）の科学研究費の交付などを受けて実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料を中心に展示している。

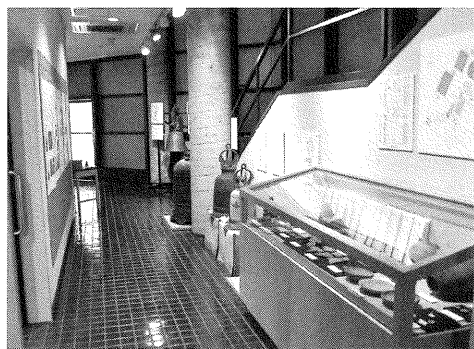
この他に、旧石器時代の資料として北海道白滝遺跡・報徳遺跡、神奈川県朝日遺跡の出土品、縄文時代では埼玉県石神貝塚、古墳時代では埼玉県野原古墳群の出土資料を展示している。

また、熊谷キャンパスにおける施設の建築に際して、事前に文化財保護法によって定められた遺跡の発掘調査を実施しており、その折に、

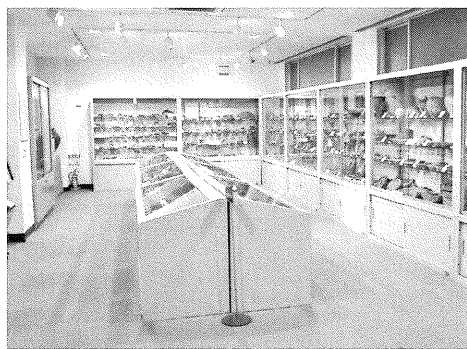
発掘された資料を展示している。

古代から近世にかけては、千葉県九十九坊廃寺・長熊廃寺跡出土品、神奈川県下出土火葬骨蔵器などを展示している。また、平成25年度に特別展展示した泥塔と瓦経の一部を新たに追加展示している。

撫石庵コレクションは、日本をはじめ、朝鮮半島・中国・タイ・ミャンマー・スリランカなどアジア各地の梵音具（鐘・鐸）のほか、金銅釈迦如来立像などが展示されている。特に、伝檀原市出土の梵鐘は、わが国の初現期の梵鐘として、極めて貴重な資料である。あわせて、この伝檀原市出土鐘を復元した鐘が寄贈されており、古代の音色を聞くことができる。



エントランス展示



第1展示室・東側展示



第1展示室・泥塔展示



第1展示室・新久窯跡展示

—第2展示室（2F）—

吉田格コレクション、樺太出土資料、ネパール・ティラウラコット出土資料、板碑を展示している。

吉田格コレクションは、吉田格氏（立正大学専門部地歴科卒）寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文文化研究者として著名であり、とくに縄文時代早期の花輪台式土器、後期の称名寺式土器は吉田氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。称名寺貝塚出土の土器・石器・骨角器および骨角器原料（鹿角）は縄文文化の研究上、極めて重要な資料である。

また、本草学者・伊藤圭介（日本最初の理学博士）蒐集の石器は、『日本産物誌』明治9（1876）年に収録されているものと、嘉永5（1852）年の箱書きを持つものがあり、当時の石器の貴重な資料として吉田コレクションに収められている。

樺太出土資料は、久保常晴博士（元本学名誉教授）寄贈のコレクションで、博士が1930年に樺太の地を踏査された際に収集されたものである。

ネパール・ティラウラコット出土資料は、1967年～1977年にかけて、立正大学がネパール王国に派遣した発掘調査団によって発掘された資料で、日本とネパール両国の親善のために、ネパール考古局より寄贈された資料である。

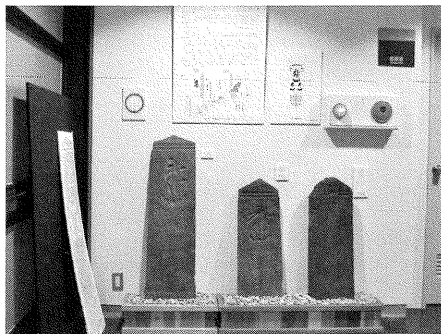
ティラウラコット遺跡は、釈尊出家の故城—カピラ城跡の有力な比定遺跡として世界の学界に知られていた。その地を10年間にわたって発掘調査した結果、カピラ城跡の最有力遺跡として注目されるにいたっている。東西約400m、南北約480mの方形の城跡内に7つの遺丘が存在し、そのうちの2箇所を発掘して得られた資料である。



第2展示室・ネパール・ティラウラコット資料



第2展示室・吉田コレクション



2階展示室入口・板碑展示



第2展示室・吉田コレクション

2. 特別展示

第8回特別展 「泥塔と瓦経」

◆期間：平成25年11月18日(月)

～12月21日(土)

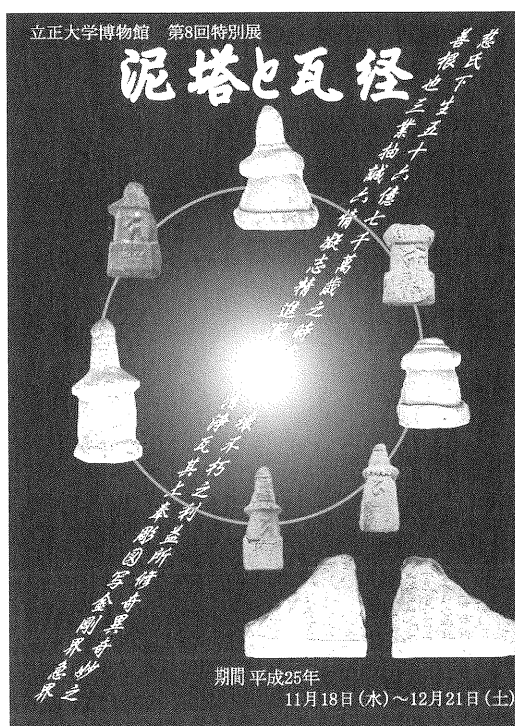
◆内容：泥塔17点(館蔵資料5点、寄託資料12点)、瓦経17点(館蔵資料2点、池上本門寺靈宝殿所蔵資料15点)を展示した。開催期間の来館者数は218名であった。

泥塔とは、泥土を型抜きにして塔形に成形し、焼成したものである。瓦経は、方形あるいは長方形の平坦な粘土板に経典を書写して焼成したものである。ともに仏教信仰に従って、様々な願いを込めた作善業として製作されたものである。

展示した泥塔は、矢追隆家氏により立正大学考古学研究室に寄贈されたものと、伯耆竹内経塚(鳥取県東伯郡琴浦町)から出土し当館に寄託されたものである。当館所蔵資料の泥塔は、立体的な宝塔形で、底部に経典を入れたと見られる小さい孔があげられている。泥塔の製作は奈良時代頃からはじまり、追善供養、息災延命、病氣平癒などの現世利益を願って作られたと考えられる。

瓦経は、釈尊の正しい教えがおこなわれなくなる末法の世に入ると信じられた永承7(1052)年以後に始まった経塚の一種である。経塚は、釈尊入滅の56億7千万年後に、衆生を救済するため出現する弥勒菩薩に備えて、経典を保存するために埋経した遺跡である。

展示した瓦経は、当館所蔵の飯盛山経塚(福岡県福岡市)出土資料と伝・大和橘寺(奈良県明日香村)出土資料の2点と、池上本門寺靈宝殿所蔵の伊勢小町塚瓦経(三重県伊勢市)14点と、播磨極楽寺瓦経(兵庫県姫路市)1点である。



[品川・熊谷移動展]

下記の日程で移動展示(パネルによる特別展の紹介)をおこなった。

◆立正大学品川キャンパス

平成26年1月14日(火)～1月29日(水)

◆熊谷市立妻沼展示館

平成26年2月1日(土)～2月28日(金)

また、関連事業として、平成26年1月15日(水)に「泥塔と瓦経」と題する池上悟当館館長による講演会を品川キャンパスにておこなった。

(5) 教育 普及

1. 博物館館務実習

平成 25 年度の博物館館務実習を、以下の日程で延 8 日間おこなった。実習生は 3 名で、その内訳は、文学部史学科 2 名、科目等履修生 1 名であった。

(実習内容)

野外実習事前講義

● 7 月 10 日 (水) 6 限 品川キャンパス

講師：池上 悟 館長

7 月 14 日 (日) と 28 日 (日) におこなわれる資料収集実習である、池上本門寺での墓標調査に先立って、池上館長より近世墓標とその調査方法についての講義がおこなわれた。

野外実習 (資料収集実習)

● 7 月 14 日 (日) ・ 28 日 (日) 池上本門寺

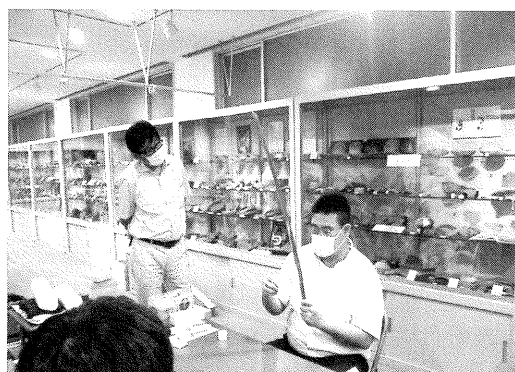
担当：池上館長、阿部常樹 (当館学芸員)

東京都大田区池上本門寺墓地にて近世墓標の調査をおこなった。

調査対象は、江戸時代に造立された墓標で、型式・石材・大きさ・銘文を記録し、写真撮影をおこなった。



野外実習の様子



刀剣取扱の実習

館務実習 熊谷キャンパス・当館

● 8 月 19 日 (月)

館務等に関する講義と資料梱包実習

講師：井上尚明先生

(埼玉県立自然の博物館館長)

博物館館務と資料調査に関する講義の後、資料の運搬についてその梱包の仕方を学び、実際に土器を用いて梱包の実習をおこなった。



実習生が製作した岩石標本

● 8月20日（火）

刀剣の取り扱いに関する講義と実習

講師：田嶋和久先生

（本学文学部社会学科准教授）

刀剣に関する解説および取扱についての講義の後、実際の刀を使用し、手入れの仕方について学んだ。

● 8月21日（水）

自然史に関する講義と実習

講師：川野良信先生

（本学地球環境科学部環境システム学科教授）

岩石学に関する基礎知識の講義の後、事前に荒川河川敷にて採集してきた岩石を用いて、標本の作製をおこなった。

● 8月22日（木）

資料台帳作製実習

担当：阿部常樹（当館学芸員）

7月14日（日）及び28日（日）におこなった近世墓標の調査成果を台帳にまとめた。調査基数77基分のカードを作成した。

● 8月23日（金）

展示パネル作製実習

担当：阿部常樹（当館学芸員）

当館2階ロビーに展示されている近世遺跡出土の木樋の解説パネルの作製をおこなった。

2. 土器焼成

平成25年度の文学部史学科「考古学実習6」（学部4年生対象）において、土器の焼成を熊谷キャンパスで実施するにあたり、博物館がこれに協力した。

実施日は、11月2日（土）・3日（日）の2日間で、竹花宏之先生（文学部非常勤講師）が担当した。参加実習生は3名であった。



土器焼成の様子



実習生が製作した縄文土器

Ⅲ. 受贈図書目録 (2013年4月～2014年3月)

〈北海道〉

札幌大学埋蔵文化財展示室

- ・札幌大学学芸員課程年報 第11集

〈青森県〉

青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書

- ・第113集 石江遺跡群
- ・第114集 市内遺跡発掘調査報告書21
- ・第115集 大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅲ
- ・第116集 石江遺跡群
- ・いにしえ青森 vol.21

つがる市教育委員会

- ・史跡亀ヶ岡石器時代遺跡・田小屋野貝塚
保存管理計画書

八戸市教育委員会

八戸市埋蔵文化財調査報告書

- ・第140集 八戸市内遺跡発掘調査報告書30
- ・第141集 下水道整備工事に伴う発掘調査報告書3
- ・第142集 新井田古館遺跡

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

- ・掘りdayはちのへ 第16号
- ・研究紀要 第2号
- ・年報 平成24年度
- ・平成25年度特別展 みみずく土偶と縄文人
—関東晩期安行文化—
- ・平成25年度秋季企画展図録 縄文時代の津
軽半島

〈山形県〉

財団法人山形市文化財振興財団

- ・最上義光歴史館だより No.20

〈宮城県〉

東北学院大学博物館

- ・常設展解説パンフレット
- ・年報 第3号(平成23年度)

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

- ・年報4 2012年度

〈福島県〉

福島県文化財センター白河館

- ・まほろん通信 Vol.47～Vol.49

〈新潟県〉

津南町教育委員会

- ・津南町農と縄文の体験実習館なじょもん
体験実習活動報告書体験実習報告 第8集

長岡市立科学博物館

- ・長岡市立科学博物館報(NKH) 第97号

〈富山県〉

富山市教育委員会

- ・富山市埋蔵文化財調査報告55
富山市内遺跡発掘調査概要Ⅷ—宮条南遺
跡 西金星・西金屋窯跡—

〈茨城県〉

取手市埋蔵文化財センター

- ・第34回企画展 平将門と子孫たち

〈群馬県〉

安中市学習の森ふるさと学習館

- ・我が郷土の文学者
- ・平成25年度春季・夏季企画展 富原文庫本
会津若松城下絵図屏風—新島八重のふるさと、
会津の心—

高崎市観音塚考古資料館

- ・第 25 回企画展 飾るからだ 古代装身具の力
- #### 長野原町教育委員会
- ・長野原町の文化財調査報告書 I

〈栃木県〉

唐澤考古学会

- ・唐澤考古 第 32 号

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

- ・第 27 回秋季特別展図録 摩利支天塚・琵琶塚古墳と飯塚古墳群—古代下野国はここからはじまった—
- ・年報 第 27 号（平成 24 年度）

栃木県立なす風土記の丘資料館

- ・年報 第 21 号
- ・第 21 回特別展図録 われ、西より来たりて 那須の地を治める！—地方から古墳文化のはじまりを探る—

〈埼玉県〉

朝霞市博物館

- ・川の魚たち～身近な川をしらべよう！～
- ・朝霞市博物館調査報告書 第 6 集 奥住家文書史料集・目録

入間市博物館

- ・紀要 第 10 号
- ・NEWS-ALIT 第 63 号・第 65 号
- ・特別展 古文書されど古文書～書く・残す・伝える～ガイドブック

さいたま文学館

- ・校歌—いちばん身近な詩
- ・館報 第 16 号
- ・企画展 近代俳句の革命児 水原秋櫻子

春日部市教育委員会

- ・春日部市史 庄和地域 近代・現代

春日部市埋蔵文化財発掘調査報告

- ・第 11 集 小湊山下 11.12.13 次地点 浜川戸遺跡 30 次地点 貝の内遺跡 25 次地点
- ・第 12 集 中屋舗遺跡 2 次地点
- ・第 13 集 花積貝塚第 3 次地点 米島西宮遺跡 1 次地点 米島塚山遺跡 1 次地点 馬場遺跡 5 次地点
- ・第 14 集 小湊山下遺跡 7.8 次地点 小湊山下北遺跡 15.16.17.18.19 次地点
- ・第 22 集 権現山遺跡 2 次地点
- ・第 23 集 貝の内遺跡 9 次地点

春日部市郷土資料館

- ・第 47 回夏季展示 最後の将軍がみた春日部—野鳥と御鷹場・御猟場—

サトエ記念 21 世紀美術館

- ・寺井力三郎展

加須市教育委員会

加須市埋蔵文化財調査報告書

- ・第 5 集 騎西城武家屋敷跡
- ・第 6 集 騎西城武家屋敷跡 KB4・5 区

神川町教育委員会

神川町埋蔵文化財調査報告

- ・第 6 集 中道遺跡第 20 地点

川口市立科学館

- ・年報 平成 24 年度

川越市立博物館

- ・第 38 回企画展 新河岸川舟運と川越五河岸のにぎわい
- ・第 39 回企画展 戦国時代の河越—城・城下・村—
- ・川越市立博物館博物館だより 第 68 ～ 70 号
- ・菅間 竹ノ谷家文書目録

埼玉県立さきたま史跡の博物館

- ・館報 No.8
- ・紀要 第 7 号
- ・企画展 古代の豪族～将軍山古墳とその時代～
- ・埼玉古墳群の謎～東国を治めた古代豪族～

行田市郷土博物館

- ・第 27 回企画展 北武蔵の埴輪—酒巻古埴群を中心として—
- ・第 21 回テーマ展 忍の水物語—治水と利水—
- ・小川一真関係資料目録
- ・武門の縁—忍・桑名・白河、幕末への軌跡—

久喜市教育委員会

久喜市埋蔵文化財調査報告書

- ・第 1 集 地獄田遺跡

久喜市文化財調査報告書

- ・第 2 集 栢間村郷土誌
- ・久喜市栗橋町史 第 4 巻 資料編 2 近世
- ・栗橋町郷土誌・静村郷土誌 久喜市栗橋町史資料 2

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

- ・埋文さいたま No.56

熊谷市立熊谷図書館

- ・斎藤氏と聖天堂
- ・奥原晴湖展～没後 100 周年記念～
- ・第 7 回自然科学展 ～今と昔の生き物たち～
- ・特別展 常光院の至宝展
- ・平成 25 年度企画展パンフレット「写生・下図・本画」大野百樹日本画展

鴻巣市教育委員会

鴻巣市文化財調査報告

- ・第 15 集 馬室小校庭内遺跡—第 1 次調査—
- ・第 16 集 新屋敷遺跡—第 1 次・第 2 次調査—
- ・第 17 集 伝源経基館跡—第 2 次～第 9 次調査—

埼玉県立歴史と民俗の博物館

- ・紀要 第 8 号
- ・平成 25 年度 埼玉県立歴史と民俗博物館要覧 第 8 号
- ・埼玉県立歴史と民俗の博物館 THE A MUSEUM 第 22 ～ 24 号
- ・特別展図録 発掘された木の道具
- ・特別展「狩野派と橋本雅邦—そして、近代日

本画へ—」

調査概報Ⅱ 埼玉の夏祭り—入間・比企・大里—博物館ブックレット

- ・第 1 集 『新篇武蔵風土記稿』の世界
- ・第 2 集 絵で語る埼玉の民話

さいたま市立博物館

- ・年報 平成 24 年度
- ・第 37 回特別展 岩槻藩の殿様～大名家の変遷 280 年～
- ・第 25 回企画展 さいたまの貝塚

鉄道博物館

- ・鐵博 第 2 号
- ・コレクション展図録 No.5 模型でたどる鉄道史～1 号機関車から“スーパーこまち”まで～
- ・コレクション展図録 No.6 鉄道×絵画
- ・企画展図録 No.9 越境のドラマ! ～峠を越える鉄道の物語り～

さいたま市立浦和博物館

- ・あかんさず 第 104 ～ 106 号

白岡市教育委員会

白岡市埋蔵文化財調査報告書

- ・第 22 集 上小笠原遺跡

埼玉県立自然の博物館

- ・埼玉県立自然の博物館研究報告 第 7 号
- ・瀬 第 18 ～ 20 号
- ・オオタカは大きくない～鳥たちの世界～

埼玉県鶴ヶ島市遺跡調査会

鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告

- ・第 72 集 羽折遺跡 第 2 次発掘調査報告書
- ・第 73 集 天神前遺跡 第 1・4 次・上山田遺跡 第 9・11 次

戸田市立郷土博物館

- ・平成 25 年度企画展 とだっこのおもちゃ箱
- ・郷土博物館だより 第 41 号

跡見学園女子大学 花蹊記念資料館

・にいくら No.17・18

蓮田市教育委員会

・2013 年企画展 最新収蔵品・出土品展―蓮田のお宝 vol. 2―

蓮田市文化財調査報告書

・第 50 集 宿下遺跡―第 24 調査地点― 宿上遺跡―第 19 調査地点― 山の内遺跡―第 11 調査地点― 馬込八番遺跡―第 13 調査地点―

羽生市教育委員会

羽生市発掘調査報告書

・第 3 集 堀越屋敷跡

飯能市郷土館

・郷土館のプロフィール 第 9 号
・飯能市郷土館研究紀要 第 6 号
・特別展 飯能方面湖水の如し―失われる災害の記憶―

深谷市教育委員会

深谷市埋蔵文化財調査報告書

・第 129 集 上敷免森下遺跡
・第 130 集 下郷遺跡Ⅶ
・第 131 集 榛沢遺跡群Ⅰ―石蒔遺跡 A・大寄遺跡 A―
・第 132 集 貉山古墳群Ⅱ（5 号墳）
・第 133 集 熊野遺跡Ⅷ
・第 134 集 上南原下遺跡
・第 135 集 外谷田遺跡

富士見市立難波田城資料館

・平成 26 年度春季企画展 田んぼの今昔

ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館

・開館 30 周年記念・第 26 回特別展 子ども
の学び―寺子屋から戦後の学校まで―
・資料館通信 第 66 号

美里町教育委員会

美里町遺跡発掘調査報告書

・第 22 集 南和田遺跡Ⅱ

日本工業大学工業技術博物館

・工業技術博物館ニュース No.86・87

宮代町郷土資料館

・道仏北遺跡・道仏上遺跡
・特別展 西光院 歴史と文化財

宮代町文化財調査報告書

・第 19 集 金原遺跡―旧石器時代編―

三芳町教育委員会

・三芳町埋蔵文化財報告 39
町内遺跡発掘調査報告書Ⅷ

毛呂山町教育委員会

毛呂山町埋蔵文化財調査報告

・第 26 集 新田東遺跡―第 2 次発掘調査報告書―
・第 28 集 堂山下遺跡―第 2 次発掘調査報告書―

横瀬町教育委員会

・秩父 横瀬根古屋城跡発掘調査報告書

吉見町教育委員会

・第 12 集 町内遺跡 7

寄居町教育委員会

・第 36 集 峯ヶ谷戸遺跡（第 2 次）

埼玉県立川の博物館

・かわはく No.42～47
・紀要 13 号
・あらかわの田んぼ図鑑
・平成 24 年度春期企画展 きんぎょ
・平成 25 年度特別展 和船大図鑑～荒川をつなぐ舟・ひと・モノ～

埼玉県立嵐山史跡の博物館

・国指定史跡比企城館跡群 菅谷館跡の植物 1
・館報 第 32 号
・企画展 観音霊場と武士
・シンポジウム災害からみた中世社会 資料集

〈千葉県〉

千葉県立中央博物館

・千葉県立中央博物館研究報告―人文科学―

第 13 卷 第 1 号

- ・中央博物館だより No.70
- ・平成 24 年度特別展「ティラノサウルスー肉食恐竜の世界ー」肉食恐竜ミニ図鑑
- ・平成 24 年度企画展「シカとカモシカー日本の野生を生きるー」シカとカモシカをもっと知ろう
- ・しいむじな 第 37 ～ 40 号

千葉県立中央博物館分館 海の博物館

- ・海の生きものの観察ノート⑩
クラゲを観察しよう
- ・チーバくんと学ぶ
深い海に暮らす生きものたち

千葉県立関宿城博物館

- ・研究報告 第 17 号
- ・平成 25 年度企画展 川が結ぶー東北地方と江戸を結んだ利根川水運ー

〈東京都〉

大東文化大学博物館

- ・大東文化大学博物館学講座だより 第 6 号

池上本門寺霊宝殿

- ・池上本門寺霊宝殿特別展 題目板碑と宝塔～中世池上の法華信仰と供養～

公益財団法人 渋沢栄一記念財団

- ・青淵 769 ～ 781 号
- ・祭魚洞渋沢敬三 5315 日の記録
- ・渋沢敬三没後 50 年企画展 祭魚洞祭
- ・渋沢研究 第 26 号

お札と切手の博物館

- ・お札と切手の博物館ニュース Vol.32・33

武蔵国分寺跡資料館

- ・武蔵国分寺跡資料館だより 第 14 ～ 16 号

立正大学経営学会

- ・立正経営論集
第 45 巻 第 2 号～第 46 巻 第 1 号

立正大学総務部総務課史料編纂室

- ・開校 140 周年記念特別展「石橋湛山と立正大学」報告書

立正大学考古学研究会

- ・立正考古 第 49・50 号

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

- ・世界遺産年報 2014 (No.19)

公益法人 文化財害虫研究所

- ・見てわかる文化財の IPM 2013 年

早稲田システム開発株式会社

- ・MAPPs Press No.5・6
- ・MUSEUM INTERVIEW CASE 86 ～ 92
- ・MEX Report 第 0 号〔創刊準備号〕
- ・ミュージアム関連報道記事スクラップ集
VOL.48 ～ 51

駒澤大学禅文化歴史博物館

- ・年次報告書 平成 24 年度

台東区立中央図書館 郷土・資料調査室

- ・柏木家文書
- ・郷土・資料室報 第 4 号

独立行政法人 国立科学博物館

- ・自然と科学の情報誌ミルシル
通巻 33 ～ 37 号

財団法人 日本博物館協会

- ・博物館研究 通巻 538 ～ 549 号
- ・子どもとミュージアム 学校で使えるミュージアム活用ガイド

明治大学博物館

- ・博物館資料の再生 自明性への問いとコレクションの文化資源化
- ・研究報告 第 18 号
- ・年報 2012 年度

公益社団法人 日本文化財保護協会

- ・飛天 平成 25 年会報

逓信総合博物館

- ・年報 平成 24 年度・平成 25 年度のあゆみ

学習院大学 学芸員課程事務室

- ・学芸員 Bulletin for Curator's Course No.17
- ・漆いろいろ 其の三

実践女子学園香雪記念資料館

- ・館報 第11号（平成25年度）

明治大学校地内遺跡調査団

- ・年報 6～8

明治大学校地内遺跡調査団調査研究報告書

- ・1 東京都杉並区 明治大学和泉校地遺跡Ⅱ
—明大第2地点の発掘調査—
- ・2 東京都調布市 富士見町遺跡1 第1地点の発掘調査
- ・3 東京都三鷹市・調布市 下原・富士見町遺跡Ⅰ 近世～近・現代の発掘調査
- ・4 東京都三鷹市・調布市 下原・富士見町遺跡Ⅱ 縄文時代の発掘調査

玉川大学教育博物館

- ・紀要 第10号
- ・館報 第11号 2012年度
- ・博物館ニュース SHU No.40・41

町田市立博物館

- ・町田市立博物館所蔵民俗資料目録

文化環境研究所

- ・Cultivate No.41

港区教育委員会

港区考古学ブックレット

- ・3 港区の江戸時代Ⅱ 台徳院霊廟跡の考古学
—増上寺寺域第2遺跡とその周辺—
- ・4 港区の先史時代Ⅱ・港区の弥生時代

〈神奈川県〉

大磯町教育委員会

大磯町文化財調査報告書

- ・第49集 大磯宿小島本陣資料目録

大磯町郷土資料館

- ・年報 平成22年度

- ・年報 平成23年度

- ・年報 平成24年度

- ・Report—大磯町郷土資料館だより—
No.32～34

女子美術大学

- ・女子美 No.175～177

横浜市歴史博物館

- ・横浜市歴史博物館ニュース No.34・35

〈山梨県〉

富士吉田市教育委員会

富士吉田市史

- ・通史編 第1巻 原始・古代・中世
- ・通史編 第2巻 近世
- ・通史編 第3巻 近・現代
- ・民俗編 第1・2巻
- ・史料編 第1巻 自然・考古
- ・史料編 第2巻 古代・中世
- ・史料編 第3巻 近世Ⅰ
- ・史料編 第4巻 近世Ⅱ
- ・史料編 第5巻 近世Ⅲ
- ・史料編 第6巻 近・現代Ⅰ
- ・史料編 第7巻 近・現代Ⅱ
- ・行政編 上・下巻
- ・富士吉田市史研究 創刊号～第15号

〈長野県〉

神長官守矢史料館

- ・八ヶ岳通信 No.31

明治大学黒曜石研究センター

- ・紀要 資源環境と人類 第3号
- ・広原遺跡群発掘調査概報Ⅰ
- ・長野県小県郡長和町鷹山遺跡群・2012年度
調査概報—史跡整備に伴う星糞峠黒曜石原
産地遺跡第1号採掘址の調査—

長野県埋蔵文化財センター

- ・埋文ニュース『かがみちゃんと学ぼうジュニアこうこがく』第1号

〈静岡県〉

東海大学社会教育センター

- ・海のはくぶつかん 通巻 239 ～ 242 号

〈三重県〉

亀山市歴史博物館

- ・亀山市史概略と使い方ガイド

〈愛知県〉

南山大学人類学博物館

- ・紀要 第31号

〈滋賀県〉

滋賀県教育委員会

- ・滋賀県所在梵音具資料調査報告書

高島市教育委員会

- ・国指定記念講演会 朽木池の沢庭園 記録集
- ・分部家文書目録

高島市文化財調査報告書

- ・第19集 高島市内遺跡調査報告書—平成24年度—
- ・第20集 田中古墳群分布測量調査報告書
- ・第21集 堀川遺跡調査報告書

〈京都府〉

同志社大学歴史資料館

- ・館報 第16号

同志社大学歴史資料館調査研究報告

- ・第12集 相国寺旧境内・上京遺跡発掘調査報告書

京都・大学ミュージアム連携実行委員会事務局

- ・京都・大学ミュージアム連携活動報告書

2011年度～2013年度

〈兵庫県〉

神戸市立小磯記念美術館

- ・関西学院の美術家～知られざる神戸モダニズム

〈高知県〉

高知県立歴史民俗資料館

- ・岡豊風日 第81号 第82号 第84号
- ・年報 平成23年度 No.21

〈福岡県〉

筑紫野市教育委員会

- ・筑紫野市歴史博物館年報12(平成22年度)
- ・筑紫野市歴史博物館年報13(平成23年度)

筑紫野市文化財調査報告書

- ・第106集 原田地区遺跡群3—弥生・古墳時代編—
- ・第107集 峠山遺跡第3次発掘調査

西南学院大学博物館

- ・年報 第5号
- ・西南学院大学ニュース Volume15～17
- ・西南学院大学博物館春季特別展 九州のキリスト教シリーズⅣ 平戸松浦家の名宝と禁教政策—投影された大航海時代とその果てに—
- ・西南学院大学博物館2013年度秋季特別展 大学博物館共同企画シリーズⅢ 日本信仰の源流とキリスト教 受容と展開、そして教育

〈鹿児島県〉

鹿児島大学総合研究博物館

- ・News Letter No.31～33
- ・年報 No.11

立正大学博物館年報 12

(平成 25 〈2013〉 年度)

平成 26 (2014) 年 4 月 30 日 発行

編集・発行 立正大学博物館

〒 360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700

TEL. 048 - 536 - 6150 FAX. 048 - 536 - 6170

E - mail : museum@ris.ac.jp

URL <http://www.ris.ac.jp/museum/>

印刷・製本；株式会社アサヒコミュニケーションズ